

商品名 リスペリドン細粒1%「日医工」 医薬品基本情報

薬効	1179 その他の精神神経用剤	一般名	リスペリドン細粒
英名	Risperidone	剤型	細粒
薬価	65.90	規格	1% 1g
メーカー	日医工	毒劇区分	(劇)

リスペリドン細粒1%「日医工」の効能・効果

統合失調症、小児期の自閉スペクトラム症の易刺激性

リスペリドン細粒1%「日医工」の使用制限等

- 昏睡状態、中枢神経抑制剤の強い影響下、アドレナリン投与中<アナフィラキシー救急治療・歯科浸潤又は伝達麻酔除く>、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴
- 糖尿病又はその既往、糖尿病の危険因子を有する、低血圧又はその恐れ・疑い、心・血管系疾患又はその恐れ・疑い、不整脈の既往、先天性QT延長症候群、パーキンソン病、レビー小体型認知症、痙攣性疾患又はその既往、てんかん又はその既往、自殺企図の既往、自殺念慮、糖尿病の家族歴、高血糖、肥満、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、脱水状態、長期臥床、不動状態、腎機能障害、肝機能障害、高齢認知症

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止

記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

リスペリドン細粒1%「日医工」の副作用等

- 高血糖、高血糖悪化、糖尿病悪化、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、口渴、多飲、多尿、頻尿
- 悪性症候群、無動緘黙、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、死亡、腸管麻痺、食欲不振、悪心、嘔吐、著しい便秘、腹部膨満、腹部弛緩、腸内容物うっ滞、麻痺性イレウス、悪心を不顕性化、嘔吐を不顕性化、低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量増加、高張尿、痙攣、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、SIADH、AST上昇、ALT上昇、γ-GTP上昇、肝機能障害、黄疸、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症、不整脈、心房細動、心室性期外収縮、脳血管障害、低血糖、倦怠感、冷汗、振戦、傾眠、低血糖症状、無顆粒球症、白血球減少、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、息切れ、胸痛、四肢疼痛、浮腫、持続勃起症

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

3. 遅発性ジスキネジア、口周部不随意運動、不随意運動

記載場所	重大な副作用
頻度	5%未満

4. 食欲不振、不眠症、不安、アカシジア、振戦、構音障害、傾眠、めまい、ふらつき、流涎過多、便秘、悪心、嘔吐、筋固縮、月経障害、易刺激性、倦怠感、口渇

記載場所	その他の副作用
------	---------

5. 気管支炎、鼻咽頭炎、咽頭炎、肺炎、胃腸炎、感染、膀胱炎、耳感染、インフルエンザ、限局性感染、気道感染、鼻炎、副鼻腔炎、皮下組織膿瘍、尿路感染、ウイルス感染、蜂巣炎、扁桃炎、眼感染、中耳炎、爪真菌症、ダニ皮膚炎、血小板減少症、好中球減少症、アナフィラキシー反応、過敏症、高プロラクチン血症、高脂血症、多飲症、食欲減退、高尿酸血症、水中毒、抑うつ症状、被害妄想、精神症状、睡眠障害、自殺企図、徘徊、リビドー減退、神経過敏、気力低下、情動鈍麻、無オルガズム症、悪夢、睡眠時遊行症、パーキンソニズム、錐体外路障害、精神運動亢進、注意力障害、構語障害、よだれ、嗜眠、意識レベル低下、会話障害、舌のもつれ、味覚異常、記憶障害、てんかん、末梢性ニューロパチー、協調運動異常、過眠症、弓なり緊張、失神、平衡障害、刺激無反応、運動障害、意識消失、眼球回転発作、眼瞼痙攣、眼脂、結膜炎、網膜動脈閉塞、霧視、眼充血、眼瞼縁痂皮、眼乾燥、流涙増加、羞明、緑内障、術中虹彩緊張低下症候群、耳痛、回転性めまい、耳鳴、洞性頻脈、房室ブロック、右脚ブロック、徐脈、左脚ブロック、洞性徐脈、起立性低血圧、低血圧、高血圧、末梢冷感、末梢循環不全、呼吸困難、咳嗽、鼻漏、副鼻腔うっ血、睡眠時無呼吸症候群、口腔咽頭痛、鼻出血、肺うっ血、喘鳴、嚥下性肺炎、発声障害、気道うっ血、ラ音、呼吸障害、過換気、口内乾燥、胃炎、唾液欠乏、腸閉塞、痔炎、歯痛、糞塊充塞、便失禁、口唇炎、舌腫脹、皮膚そう痒症、湿疹、皮膚過角化、紅斑、ざ瘡、脱毛症、血管浮腫、皮膚乾燥、頭部乾癬疹、脂漏性皮膚炎、皮膚変色、皮膚病変、蕁麻疹、皮膚水疱、筋肉痛、筋力低下、背部痛、四肢痛、関節痛、姿勢異常、筋骨格痛、頸部痛、筋骨格系胸痛、筋痙攣、尿閉、尿失禁、無月経、不規則月経、女性化乳房、性機能不全、乳房不快感、勃起不全、月経遅延、希発月経、腔分泌物異常、乳房腫大、乳房分泌、気分不良、胸痛、顔面浮腫、末梢性浮腫、疼痛、不活発、浮腫、低体温、インフルエンザ様疾患、悪寒、薬剤離脱症候群、AST増加、血中クレアチニン増加、血中ブドウ糖増加、LDH増加、血中プロラクチン増加、血中ナトリウム減少、血中尿素増加、心電図異常、心電図QT延長、好酸球数増加、グリコヘモグロビン増加、血小板数減少、総蛋白減少、白血球数減少、白血球数増加、尿中蛋白陽性、ALP増加、ヘマトクリット減少、心電図T波逆転、血中尿酸増加、尿中血陽性、肝酵素上昇、尿糖陽性、転倒、転落、引っかかり傷、処置による疼痛

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

6. 貧血、食欲亢進、激越、うつ病、幻覚、躁病、妄想、緊張、錯乱状態、リビドー亢進、頭痛、ジストニー、鎮静、運動低下、立ちくらみ、ジスキネジア、無動、しびれ感、痙攣、仮面状顔貌、頭部不快感、錯感覚、眼調節障害、視力低下、頻脈、動悸、心室性期外収縮、上室性期外収縮、潮紅、鼻閉、嚥下障害、腹部膨満、胃不快感、下痢、腹痛、消化不良、上腹部痛、肝機能異常、多汗症、発疹、斜頸、筋痙攣、関節硬直、排尿困難、頻尿、乳汁漏出症、射精障害、無力症、疲労、歩行障害、胸部不快感、発熱、ALT増加、CK増加、血圧低下、血中トリグリセリド増加、 γ -GTP増加、体重増加、体重減少

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

7. 高血糖悪化、糖尿病悪化、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、口渇、多飲、多尿、頻尿

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

8. 低血糖、脱力感、倦怠感、冷汗、振戦、傾眠、意識障害、低血糖症状

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

9. 起立性低血圧、低血圧、一過性血圧降下、QT延長、悪性症候群、錐体外路症状悪化、錯乱、意識レベル低下、転倒、体位不安定、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性、離脱症状、錐体外路症状、鎮静、頻脈、突然死、死亡率上昇、術中虹彩緊張低下症候群、嘔吐症状を不顕性化、乳腺腫瘍、下垂体腫瘍、膵臓内分泌部腫瘍

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

リスペリドン細粒1%「日医工」の相互作用

1. 薬剤名等：パリペリドンを含む経口製剤

発現事象	作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の活性代謝物はパリペリドン	指示	禁止

2. 薬剤名等：アドレナリン

発現事象	作用を逆転させ血圧降下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性 α 、 β 受容体の刺激剤であり、本剤の α 受容体遮断作用により β 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強	指示	禁止

3. 薬剤名等：中枢神経抑制剤

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤の中枢神経抑制作用	指示	慎重投与

4. 薬剤名等：ドパミン作動薬

発現事象	相互に作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤はドパミン遮断作用を有していることから、ドパミン作動性神経において作用が拮抗	指示	注意

5. 薬剤名等：降圧薬

発現事象	降圧作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤の降圧作用	指示	注意

6. 薬剤名等：アルコール

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	アルコールは中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

7. 薬剤名等：CYP2D6を阻害する薬剤

発現事象	本剤及び活性代謝物の血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤の薬物代謝酵素阻害作用	指示	注意

8. 薬剤名等：CYP3A4を誘導する薬剤

発現事象	本剤及び活性代謝物の血中濃度が低下	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤のCYP3A4誘導作用	指示	注意

9. 薬剤名等：CYP3A4を阻害する薬剤

発現事象	本剤及び活性代謝物の血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤のCYP3A4阻害作用	指示	注意

10. 薬剤名等：QT延長を起こすことが知られている薬剤

発現事象	QT延長	投与条件	-
理由・原因	QT延長作用が増強	指示	注意

11. 薬剤名等：アドレナリン含有歯科麻酔剤

発現事象	血圧降下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性 α 、 β 受容体の刺激剤であり、本剤の α 受容体遮断作用により β 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強	指示	注意

